

## シグナル伝達医学研究展開セミナー

# HMGB1を標的とする中枢神経疾患治療と相互作用タンパク

日時：2019年4月8日（月）午後4時半～午後6時

場所：神戸大学医学部附属病院 第2会議室

## 西堀 正洋 先生

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科薬理学分野 教授



High mobility group box-1(HMGB1)は核内に局在するクロマチンDNA結合タンパクで、ネクローシス細胞やある種の刺激下の細胞において細胞核から細胞外へ放出される独特の動態をとる因子である。一旦細胞外領域に放出されると、複数の受容体刺激を介しサイトカイン様活性を発揮することから、近年炎症性疾患病態との関連で注目されるようになった。本講演では、種々の障害性刺激に伴う神経細胞HMGB1の動態と中枢神経系血液脳関門の破綻病態におけるHMGB1の関与と、抗HMGB1抗体治療についてお話しする。さらに最近進めているHMGB1結合血漿タンパク因子との興味深い相互作用について紹介する。

### 参考文献

1. Haruma J et al. Anti-high mobility group box-1 (HMGB1) antibody attenuates delayed cerebral vasospasm and brain injury after subarachnoid hemorrhage in rats. *Sci Rep* 6: 37755 (2016).
2. Sasaki T et al. Anti-high mobility group box1 antibody exerts neuroprotection in a rat model of Parkinson's disease. *Exp Neurol* 275: 220-231 (2016).
3. Wake H et al. Histidine-rich glycoprotein prevents septic lethality through regulation of immunothrombosis and inflammation. *EBioMedicine* 9: 180-194 (2016).

主催：シグナル伝達医学研究展開センター（担当：薬理学分野 078-382-5443）